

令和3年度（2021年度） シラバス

教科	芸術	科目	音楽Ⅰ	1学年	必修	1単位
科目の目標	音楽の幅広い活動を通して、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、音楽文化についての理解を深める。					
教科書	音楽Ⅰ Tutti（教育出版）	副教材	適宜			
準備物	・五線ノート8段～12段のもの・A4版紙ファイル(1回目のガイダンスで説明後に準備すること。)					

1 学習目標と評価（どのような力を、どのレベルまで身に付けるか）

観点	知識・技能	思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
	創造的な音楽表現の技能	音楽表現の構想と工夫	鑑賞の能力	音楽への関心・意欲・態度
旭東DP	【認知力】	【表現力】 【創造力】	【共感力】 【分析力】	【行動力】
割合	40%	30%	10%	20%
A	創造的な音楽表現をするために、基礎的な能力をいかし、効果的な表現の技能を身に付け、表すことが十分にできている。	音楽のよさや美しさを感じ取り、感性を働かせながら、自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫することが十分にできている。	日常生活の音楽の効能や音楽の伝統と文化について幅広く理解し、その価値を考え、音楽のよさや美しさを創造的に味わうことが十分にできている。	音楽の創造的活動の喜びを味わい、音楽の伝統と文化に関心を持って、主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組むことが十分にできている。
評点	33～40	25～30	8～10	17～20
B	創造的な音楽表現をするために、基礎的な能力をいかし、効果的な表現の技能を身に付け、表している。	音楽のよさや美しさを感じ取り、感性を働かせながら、自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫している。	日常生活の音楽の効能や音楽の伝統と文化について幅広く理解し、その価値を考え、音楽のよさや美しさを創造的に味わっている。	音楽の創造的活動の喜びを味わい、音楽の伝統と文化に関心を持って、主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとしている。
評点	17～32	13～24	4～7	9～16
C	創造的な音楽表現をするために、基礎的な能力をいかし、効果的な表現の技能を身に付け、表わすことが不十分である。	音楽のよさや美しさを感じ取り、感性を働かせながら、自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫することが不十分である。	日常生活の音楽の効能や音楽の伝統と文化について幅広く理解し、その価値を考え、音楽のよさや美しさを創造的に味わうことが不十分である。	音楽の創造的活動の喜びを味わい、音楽の伝統と文化に関心を持って、主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組むことが不十分である。
評点	～16	～12	～3	～8
評価方法	実技試験 ノート・課題プリントの提出	実技試験	自己評価プリント	自己評価プリント・授業態度・ノート提出

2 学習計画（いつ、何を学ぶか）

月	単元名	具体的な学習内容
4	【ガイダンス】	・授業の全体の流れや準備するものの指示
5	○校歌	・歌詞を朗読し、意味を感じ取らせ、斉唱で練習をする。
6	○楽典 音程（単音程・複音程、転回音程、協和音程 不協和音程、全音階音程、半音階音程など）	・基礎的な楽譜の読み方や、読譜の能力を確認した後に 音程の学習
7	○イタリア歌曲「カーロ・ミオ・ベン」	・イタリアの文化、習慣、歴史を知覚し歌詞が表す情景や心情などを生かした楽曲にふさわしい音楽表現を工夫し、自己の表現意図を持つ。
8		
9	○器楽「津軽三味線」（文化譜の学習）	・三味線の組み立て方、扱い方の学習。姿勢、撥の持ち方勘所を理解する。
10		
11	○十五夜 ○ソーラン節	・三味線の奏法に出てくる「ハジキ」「スクイ」を知覚し、音色の変化や表現法に役立てる。
12		・日本の有名な民謡の中から、北海道「ソーラン節」を学習します。民謡の歌詞から、職業歌を知覚し力強い表現の工夫をする。
1	○歌唱 ○アメリカの歌「夢路より」	・世界の様々な歌を学習し、情景、心情を知覚しながら歌に対する表現の工夫をする。
	○日本歌曲「この道」	・「この道」の曲想と歌詞が表す情景や心情、楽曲の背景との関わりなどに関心を持ち、イメージを持って歌う学習に主体的に取り組もうとしている。
	○「故郷」	歌曲が持つ曲想を歌詞の内容や楽曲の背景などとかかわらせて、イメージを持って歌い、表現を工夫する。
2	○鑑賞「サウンドオブミュージック」	・曲想と歌詞の内容と、様々な舞台芸術の違いに関心をもち、それらを生かして歌うことに主体的に取り組もうとしている。
3	モーツァルト「魔笛」	・オペラ、ミュージカルといった舞台芸術の特徴を理解し、それらの文化的・歴史的背景に関心をもって、鑑賞することに主体的に取り組もうとしている。

3 学習方法（どうやって学ぶか）

- (1) 校歌の学習は歌詞の意味を理解し、変拍子のポイントを押さえて、範唱用のCDを使って歌えるようにします。
- (2) 音程の授業は、まず基本的な音符の読譜確認をしながら、普段使っている。音と音の隔たる幅の音程を学習していきます。またその中でも転回音程や協和音程、全音階音程、複音程など様々な場面で使われていることを実際に音を出し、イメージして学習していきます。
- (3) 選択授業の特質上、混成4部合唱ができません。授業ではイタリア歌曲独唱として「カーロ・ミオ・ベン」を授業で取り組みます。イタリア語を学習し言語で歌えるように取り組みます。また歌詞の意味や背景や情景にも注意して練習して発表します。
- (4) 日本の伝統音楽の中から津軽三味線を学習します。組み立て方や撥の持ち方、姿勢、片付け方から入り、調弦方法、更に特徴的な奏法（ハジキ、スクイ等）を感じ取って学習します。1年生では北海道の有名な民謡「ソーラン節」を全員で発表します。
- (5) 鑑賞は日本の歌舞伎やミュージカル、オペラ等を鑑賞します。舞台芸術の特徴を知り、文化的、歴史的背景を感じ取って鑑賞することでより一層深まる鑑賞を行います。

※以上のことから音楽の授業は座学（楽典）歌唱（独唱）器楽「津軽三味線」の三本立てで、行います。